

令和 8 年 第 1 回 定 例 会

一 般 質 問 通 告 書

白 井 市 議 会

令和8年第1回定例会 一般質問一覧表

質問日	質問番号	氏名	質問事項
2月18日	1番	石田 里美 議員	1. マイナンバーカードの現状と課題について 2. 市民の交通手段の確保について
	2番	荒井 靖行 議員	1. パブリックコメントについて 2. 白井駅・西白井駅前の安全対策について 3. インバウンドを対象とした白井市の観光政策について
	3番	柴田 圭子 議員	1. 生活道路の速度規制について 2. 随意契約の透明性と妥当性について
	4番	平田 新子 議員	1. 公共施設の利便性向上と今後について 2. 白井市内での起業・創業の支援について
2月19日	5番	岩田 典之 議員	1. 分煙施設の利用状況と喫煙について 2. 後期高齢者と運転免許証自主返納者にナッシー号の無料バス券を
	6番	徳本 光香 議員	1. 高い補聴器を購入しやすくする補助金制度の創設について 2. 白井の公共交通問題への対応について
	7番	石原 淑行 議員	1. 白井市地域公共交通計画の開始にあたり、市民の安心できる移動手段の確保について
	8番	小田川 敦子 議員	1. 不登校児童生徒への支援体制の拡充について 2. 公共施設等総合管理計画改定後の推進方針と実行体制について
2月24日	9番	久保田 江美 議員	1. 財政運営について 2. 公共施設等総合管理計画の見直しを踏まえた公共施設の最適化について
	10番	石井 恵子 議員	1. 令和8年度予算編成方針と今後の財政運営について
	11番	根本 敦子 議員	1. 富士地区の交通不便の解決方法について 2. 市内のデータセンター建設問題について
	12番	武藤 美砂子 議員	1. 災害時に共に支え合うまちづくりについて

質問事項	質問要旨
1. マイナンバーカードの現状と課題について	<p>マイナンバーカードは、平成28年1月に交付を開始してから、約10年が経過していますが、行政手続のオンライン化に向けた環境整備を進めているなか電子証明書を利用したオンライン上での本人確認が可能となるマイナンバーカードの普及が不可欠となることから、これまで、マイナンバーカードの普及活用や、それに伴う申請手続き等の利便性向上について、現状と課題についてお伺いします。</p> <p>そこで次の質問をいたします。</p> <p>(1) 現在の白井市におけるマイナンバーカードの申請者数と保有状況についてお伺いします。</p> <p>(2) 令和6年12月2日から、マイナンバーカードとの一体利用による国民健康保険証の廃止が決定し、その後のマイナンバーカードと保険証の紐づけによる現状をお伺いします。</p>

2. 市民の交通手段の
確保について

公共交通は移動の利便性を高める手段として、また若い世代や高齢者等の交通弱者の移動手段として、必要性や役割が認められています。

道路等とともに交通インフラとしての側面も持ち合わせていると思います。交通を取り巻く状況は大きな転換期に差しかかっており、AIの導入や自動運転技術の進歩、さらにはシェアリングエコノミーの進展に対応し、ライドシェアの考え方の広まり等、これまでの概念には考えられなかった形でモビリティの変革が起きていると思います。また一元的なモビリティサービスとして捉え、これからの公共交通も、新たなモビリティサービスという土台の上に乗って、今後のあり方等を検討していく必要があると思います。公共交通については道路などとは別の次元の第二の交通インフラとして捉えるべきとも考えられます。

以下の項目について伺いをします。

- (1) 公共交通の政策的課題として重要度の位置付けは。
- (2) 公共交通のあり方、役割についてどのように考えていますか。
- (3) 市の現在の公共交通についての評価は。
- (4) 令和8年の交通対策を伺います。

質問事項	質問要旨
<p>1. パブリックコメントについて</p>	<p>現在各地域センターにおいて審議会を終えた計画等へのパブリックコメントを募集していますが、制度への理解が進んでいません。そこで伺います。</p> <p>(1) パブリックコメント制度の概要及びその活用方法を伺います。</p> <p>(2) 今年度の実施回数と提出数、電子申請による申請数の内訳を伺います。</p> <p>(3) 申請数の増加を図るため、どのような工夫をされていますか。</p>
<p>2. 白井駅・西白井駅前の安全対策について</p>	<p>市民の方から雨天時、白井駅前から帰宅途中に転倒して骨折により入院をされたとの苦情を頂戴しました。そこで白井駅、西白井駅を点検すると雨天時に滑りやすいタイルがあることが分かりました。そこで伺います。</p> <p>(1) 白井駅周辺にある滑りやすいタイルへの対策は。</p> <p>(2) 西白井駅周辺にある滑りやすいタイルへの対策は。</p> <p>(3) 安全歩行に対する点検の予定は。</p>
<p>3. インバウンドを対象とした白井市の観光政策について</p>	<p>成田空港「第2の開港」に向けてインバウンド政策が注目されています。白井市は都心と成田空港の中間に位置することから途中下車による体験観光（コト消費）の可能性があります。そこで伺います。</p> <p>(1) 白井市内のインバウンド観光資源をどのように評価していますか。</p> <p>(2) インバウンド観光の担い手をどのように考えますか。</p> <p>(3) 観光政策は近隣自治体との連携が不可欠です。とりわけ印西市との連携協定を活用し推進することはできませんか。</p>

質問事項	質問要旨
1. 生活道路の速度規制について	<p>2026年9月1日より、改正道路交通法施行により生活道路の法定速度が一律60km/hから30km/hへ引き下げられることになっています。これは、いわゆる「ゾーン30」や「ゾーン30プラス」といった区域規制の取組みを強化する流れの一環です。</p> <p>白井市はゾーン30の取組みがない中、この改正道路交通法を受け、歩行者の安全対策をどのように進めていきますか。</p> <p>(1) 白井市における生活道路とは</p> <p>(2) 白井市における対象道路は</p> <p>(3) 9月1日の改正道路交通法施行までにどのような取組みをしますか。</p>

2. 随意契約の透明性と妥当性について

随意契約とは、競争性が確保できない場合に限って例外的に認められる制度です。

地方自治法施行令第167条の2に定められ、白井市の財務規則においては第133条～135条が施行令に準じて定められています。

施行令第167条の2第1項第1号（および別表第5）に規定されている「少額随意契約」の基準額（上限額）を超える随意契約について令和2年度から令和7年度上半期までの随意契約について確認しました。

以下です。

令和6年度までは

- ・ 130万円超の工事
- ・ 500万円以上の委託
- ・ 80万円超の物品
- ・ 40万円超の賃貸借

令和7年度は基準額が変更されたので

- ・ 200万円超の工事
- ・ 500万円以上の委託
- ・ 150万円超の物品
- ・ 80万円超の賃貸借

その結果、特定の事業者に契約が集中している傾向が複数の分野で見られ、随意契約の運用が形式的になっているのではないかと懸念を持ちました。

そこで、随意契約の透明性と競争性の確保という観点から質問します。

(1) 基幹系システムや、文書管理システム・教育 ICT・給食物資など複数分野で、一者随契の状態が続いています。

- ①競争性確保の観点から、随契とする判断基準は何か。
- ②他社製品・他方式への乗り換え可能性を検討したか。未実施なら理由は。
- ③自治体DXの標準化が進む中で、白井市の住民情報・税・福祉・会計・人事など、行政の根幹を支えるシステム群の全領域を一社が長年にわたって引き受けている状況です。行政情報システムの一社集中という側面とICT業務の大部分が随意契約であるという側面から、問題ではないか。
- ④給食物資の随契
2億円規模の随契があるが、価格の妥当性の検証は。

(2) 随意契約の理由

- ①随契の多くが「競争入札に適さない（第167条の2第1項第2号）」で処理されていますが、判断する根拠をどの程度具体的に検証しているのか。
- ②随契の妥当性をチェックする内部体制はどうなっているのか。
- ③第三者が妥当性を判断できる内容か。

(3) 人件費比率の高い契約の価格の妥当性

人件費の比率の高い委託が随契で継続している。

- ①価格の妥当性をどのように判断しているか。

(4) 令和7年度からの基準引き上げ

随契の金額基準が緩和され、透明性の低下が懸念される。

- ①随契件数は増える見込みか。
- ②透明性確保の追加措置を講じる考えはあるか。

(5) 随契の透明性向上のため、改善策を講じる考えはあるか。

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 公共施設の利便性向上と今後について</p>	<p>市の公共施設には、ニュータウン開所とほぼ同時に開設されたものが多くあり、老朽化してきております。令和元年（2019年）9月、白井市公共施設カルテが作成され、二つの施設別カルテ〔①学校・学童保育所・保育園・児童館等〕と〔②公民館・文化系・産業振興・福祉・運動施設〕が長寿命化を図るため建物としての施設概要・機能別利用状況・維持管理コストなどが個別に明示されております。また、平成29年、行政経営有識者会議には、第6次総合計画の基本的方向性を示す「行政経営指針」策定と共に、「白井市公共施設等総合管理計画」策定について諮問されておりました。その結果、平成29年（2017年）から平成68年（2056年）までの40年間を期間とする、「白井市公共施設等総合管理計画」が策定されております。公共施設の市民ニーズに即した利便性向上と、今後の在り方・方向性について伺います。</p> <p>(1) 公共施設等総合管理計画に基づき、持続可能性、長寿命化等をポイントに策定されている、インフラを含む公共施設に関する計画の種類・内容について伺います。</p> <p>(2) 大規模改修時にLED化するという考え方を伺っていましたが、水銀による環境問題や健康被害のリスク、省エネ推進の観点で、2027年末、すべての蛍光灯が製造終了となります。その対応について伺います。</p> <p>(3) 千葉ニュータウン開設のころ、一斉に開設された公共施設が幾つもあります。大規模改修の要素に、ZEB：省エネ、インクルーシブ：障がい者等への配慮などの考え方を加えていく必要があると思いますが、改修内容の見直しについて伺います。</p>

<p>2. 白井市内での起業・創業の支援について</p>	<p>白井市の財政強化を模索する方法としては、農商工の既存産業の振興・企業誘致の他に、新たな産業・事業を生み出していくスタートアップが考えられます。駅周辺活性化や公共施設の大規模改修といったタイミングを活かし、市民の起業に貢献できる施設や仕組みを作っていくことが白井市としても必要だと思ひ、新規事業の立ち上げから成長フェーズまでの起業と創業の支援について伺ひます。</p> <p>(1) 現在、市内で行われている起業・創業支援の内容を伺ひます。</p> <p>(2) まずは、起業したい方々の相談窓口、そして、経営・法律他の指導、融資などの資金調達・補助、取引や販促のコネクトなどについて市として熱い対応をしている自治体がいくつもあり、財政的にも市民の活動活性化にも素晴らしい実績を示されておりますが、白井市においての展開についての考えを伺ひます。</p> <p>(3) 市が目指す若者世代の定住という点でも、新たな起業家が誕生し活躍頂くことや、定年退職後の収入確保についても重要性の高い起業・創業支援事業の今後について伺ひます。</p>
------------------------------	---

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 分煙施設の利用状況と喫煙について</p>	<p>市は、昨年10月から受動喫煙の防止に関する条例の制定に伴い白井駅及び西白井駅周辺に分煙施設を設置しました。これらの利用状況と喫煙等について伺います。</p> <p>(1) 分煙施設の利用状況</p> <p>(2) 分煙施設の活用</p> <p>(3) 重点区域の見回り状況</p> <p>(4) 防犯カメラ設置について</p> <p>(5) 職員の喫煙場所</p> <p>(6) たばこ税との関係</p> <p>(7) 市役所内に分煙施設設置の検討</p>
<p>2. 後期高齢者と運転免許証自主返納者にナッシー号の無料パス券を</p>	<p>我が国は2007年から超高齢社会に突入し、現在75歳以上は約2100万人、総人口に占める割合は16.8%となり、2070年には、4人に1人が75歳以上と予測されています。特に高齢者ドライバーによる事故の割合が増加し、高速道路での逆走などが社会問題になっており、白井市においても例外とは言えません。</p> <p>そこで、高齢者が運転免許証を返納しても足の確保ができるように、75歳以上の高齢者と運転免許証自主返納者へのナッシー号無料パス券の付与について、以下市の見解を伺います。</p> <p>(1) 後期高齢者の免許証取得状況</p> <p>(2) 運転免許証の自主返納状況</p> <p>(3) 免許証を自主返納することのメリットとデメリット</p> <p>(4) ナッシー号の収支</p> <p>(5) ナッシー号無料パスの付与について</p>

質問事項	質問要旨
<p>1. 高い補聴器を購入しやすくする補助金制度の創設について</p>	<p>白井市内には以前から、人の話が聴こえづらくなったために地域の活動や外出を控える高齢者、補聴器が高くて買えないという人たちがいます。東京都をはじめ、値段の高い補聴器購入への補助金制度を実施する自治体が増え、補助額も増えてきています。認知機能の維持や認知症の予防のため、また、会話や生活、つまり人生を楽しむために、補聴器を買いやすくする補助制度が必要です。多くの市民の要望を受け、言語聴覚士として、再度、要望・提案します。</p> <p>(1) 白井市として、補聴器購入に対する補助金制度の創設が急務だと思いますが、検討の進み具合と実施の予定は。</p>
<p>2. 白井の公共交通問題への対応について</p>	<p>市内の高齢化と、自動車の免許返納者の増加、民間バスの減便・撤退が進むなかで、市民の移動手段の確保は、生活と人生の質を保つ土台となる重要な課題です。そこで、今後の白井の公共交通問題への対応策について質問します。</p> <p>(1) 「白井市地域公共交通計画」の策定方法について（手順・コンサルタントと市職員の役割分担など）</p> <p>(2) 「白井市地域公共交通計画」に市民の要望をどう反映させますか。</p> <p>(3) バスについての課題（ルート・ダイヤ・運行日・運転手不足など）と対策、バスと連携した新しい公共交通手段の導入について</p> <p>(4) 北総鉄道の課題と対策について</p>

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 白井市地域公共交通計画の開始にあたり、市民の安心できる移動手段の確保について</p>	<p>白井市では、平成30年に策定した「白井市地域公共交通網形成計画」が令和7年度末で終了することから、令和8年度から新たな「白井市地域公共交通計画」がスタートします。</p> <p>素案のパブリックコメントも実施され、市民の意見を踏まえ、地域公共交通活性化協議会にて最終決定されると伺っています。</p> <p>一方、市内では、運転手不足によるバスの減便、高齢化に伴う免許返納後の移動の不安など、交通に関する課題が深刻化しています。</p> <p>こうした状況の中で、今後、市はどのように計画を進め、市民の移動手段を確保していくのか伺います。</p> <p>(1) 基本方針1「誰もが目的に応じて便利に利用できる公共交通サービス網をつくる」について</p> <p>(2) 基本方針2「白井駅・西白井駅・市役所を交通結節点とし乗継機能の強化を図る」について</p> <p>(3) 基本方針3「多様な主体の連携や協働により公共交通を補完する」について</p> <p>(4) 基本方針4「公共交通を最大限活用し持続させるため利用増進を図る」について</p>

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 不登校児童生徒への支援体制の拡充について</p>	<p>不登校児童生徒の増加が続く中、学びの保障に加え、健康管理や生活支援、初期対応体制、学校外の学びの場の確保など、総合的な支援体制の整備が求められています。これまで提起してきた施策提案に関する検討及び対応の進捗を確認するとともに、今後の具体的な取組について質問いたします。</p> <p>(1) 学校給食の無償化や公平性の議論が進む中、不登校児童生徒など給食の恩恵を受けられない子どもへの配食等の支援の必要性をこれまで提起してきました。その際は学びの充実を優先するとの答弁でしたが、その後の進捗状況について伺います。</p> <p>(2) 不登校により学校の健康診断を受診できず、疾病リスクが把握されないままとなる児童生徒がいることは、将来的な健康被害にもつながりかねない重要な課題です。不登校児童生徒への健康診断の実施方法の見直しについてこれまで提案してきましたが、その後の進捗状況について伺います。</p> <p>(3) 不登校の初期段階における対応強化として、スクールソーシャルワーカー（SSW）を中心とした早期支援の必要性と有効性をこれまで提起してきましたが、その後の進捗状況について伺います。</p> <p>(4) 学校外における学びの保障の観点から、市内への民間フリースクール等の居場所や学びの場の誘致を進めるための支援策について、市の方針および具体的な取組について伺います。</p>

<p>2. 公共施設等総合管理計画改定後の推進方針と実行体制について</p>	<p>公共施設等総合管理計画の改定案が示されました。更新費用の増大や人口構造の変化を踏まえ、従来計画から方針や運用面がどのように具体化されたのかが重要です。改定後の計画を実効あるものとするための具体的な取組みについて質問いたします。</p> <p>(1) 最適配置の推進に向けた具体的な取組内容と施設再編の進め方について伺います。</p> <p>(2) 財政負担の軽減および更新費用の平準化に向けた具体的な目標設定と実行方策について伺います。</p> <p>(3) 計画の実効性を高めるための全庁横断的な取組体制および進捗管理の仕組みについて伺います。</p>
--	--

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 財政運営について</p>	<p>本市の財政状況を見ると、実質単年度収支がここ数年マイナスとなっており、財政調整基金も減少傾向にあります。</p> <p>今後は、人件費や物価の高騰、一部事務組合費の負担増など、行政運営を取り巻く環境は一層厳しくなることが見込まれます。</p> <p>こうした中で、基金の考え方や継続事業の在り方を含め、費用対効果を重視した持続可能な財政運営が求められていると考えます。</p> <p>そこで、本市の財政運営に対する基本的な考え方及び、個別施策における財政判断の在り方について伺います。</p> <p>(1) 基金の運用について 本市における基金の運用について、現在の考え方及び運用の基本的な方針を伺います。</p> <p>(2) 実質単年度収支及び財政調整基金の状況について 実質単年度収支がここ数年マイナスとなっている状況及び、財政調整基金が減少している現状について、市としてどのように認識しているのか伺います。</p> <p>(3) 体育館エアコン設置の時期と財政的判断について 体育館へのエアコン設置について、今回この時期に実施することとした財政的な判断の根拠を伺います。</p> <p>(4) 体育館エアコン設置の教育的意義について 体育館にエアコンを設置することが、教育環境の改善や教育の価値向上にどのように資すると考えているのか、教育的意義について伺います。</p>

2. 公共施設等総合管理計画の見直しを踏まえた公共施設の最適化について

現在、本市では公共施設等総合管理計画の見直しが進められており、人口減少や財政状況の変化を踏まえた公共施設の在り方を、中長期的な視点で整理していくことが求められている。

学校施設を含む公共施設全体について、現状での維持管理、機能集約、複合化、将来的な活用までを含め、どのような考え方で検討を進めていくのかについて伺います。

- (1) 公共施設等総合管理計画見直しの基本方針について
現在進められている公共施設等総合管理計画の見直しについて、どのような方針を持って取り組んでいるのか伺います。
- (2) 公共施設全体を見据えた最適配置の考え方について
公共施設全体について、現状での維持管理、機能集約、複合化等を含めた最適配置をどのような考え方で整理し推進していくのか伺います。
- (3) 当計画における学校施設の位置づけについて
公共施設等総合管理計画の見直しにおいて、学校施設をどのように位置づけているのか伺います。
- (4) 将来的な公共施設跡地の利活用と検討期間について
今後、将来的に公共施設の統廃合や移転が生じた場合、その跡地の利活用も含めた検討が必要になると考えるが、市としては、どのような視点で、どの程度の期間を見据えて検討を進めていく考えなのか伺います。

質問事項	質問要旨
<p>1. 令和8年度予算編成方針と今後の財政運営について</p>	<p>令和8年度は、第6次総合計画がスタートし、市の将来像に向けた歩みを本格的に進める大切な年度となります。一方で、物価高騰や義務的経費の増加、公共施設の老朽化など、市民生活に影響を及ぼす課題も多く、限られた財源をどのように活かしていくかが問われています。</p> <p>こうした状況の中で、市民の安心と暮らしを守り、誰一人取り残さない持続可能なまちづくりを進めるためには、予算編成にあたっての市の考え方や重点分野を丁寧に確認していくことが重要だと考えます。</p> <p>そこで、令和8年度予算編成方針に示された財政状況を踏まえつつ、第6次総合計画の推進に向けた市の姿勢や重点的に取り組む分野、また持続可能な行財政運営に向けた考え方について伺います。</p> <p>(1) 令和8年度予算編成方針に示された財政状況について</p> <p>①義務的経費の増加や物価高騰が続く中で歳出の優先順位をどのように行うのか</p> <p>(2) 第6次総合計画前期基本計画の推進と予算編成の関係について</p> <p>①「6つの目指すまち」のうち令和8年度に市として重点を置く分野はどこなのか</p> <p>②新規事業を特別要求枠とした理由とその優先順位の考え方について</p> <p>③若い世代が定住したいと感じる環境づくりについて、市が最も課題と認識している点は何か</p> <p>④教育環境の充実に向け、令和8年度に特に重点を置く取り組み</p> <p>⑤自然環境と都市環境が調和する「白井らしさ」をどのようにとらえ、今後の施策に反映していくのか</p> <p>⑥持続可能な農業の実現や特産物の振興に関する市としての基本的な考え方について</p>

(3) 持続可能な行財政運営の実現について

- ①「誰一人取り残さない」持続可能なまちづくりの観点から予算編成における市の姿勢について
- ②DX推進指針に基づく市民サービス向上や業務効率化の取り組みにおける令和8年度の重点的な方向性について
- ③「最小の経費で最大の効果」を掲げる既存事業の見直しについてどのような視点で行うのか

質 問 事 項	質 問 要 旨
<p>1. 富士地区の交通不便の解決方法について</p>	<p>富士地区では、今年1月16日に突然、通勤・通学の重要な接続駅である西白井駅（北総線）および鎌ヶ谷大仏駅（京成線）へ向かうバス路線の朝夕の便がなくされ、昼のみの運行に縮小されました。これにより、鉄道交通へのアクセスが著しく制限され、市外へ通勤・通学する住民の生活に深刻な支障が生じています。</p> <p>特に、朝夕の通勤通学時間帯における減便は深刻で、市外へ通う社会人や学生にとって、生活の基盤そのものを揺るがす問題となっています。代替手段が乏しい富士地区において、今回の減便は地域の交通弱者をさらに追い詰める結果となっています。</p> <p>この状況を一刻も早く解決するため、以下について質問します。</p> <p>(1) 今回の減便に関して、市が事前にどのような情報を把握し、住民への説明をしたのか。</p> <p>(2) 減便によって生じた交通不便に対し、市としてどのような対応策を検討しているのか。</p> <p>(3) 今後、公共交通のダイヤ改正や減便が行われる場合の対応についての考えは。</p>

2. 市内のデータセンター建設問題について

近年、企業による脱炭素化の取組みは急速に進んでおり、自治体との協働も重要性を増しています。今回、包括連携協定を結んだ事業者から「脱炭素社会の実現に向けて自治体と連携を深めたい」という申し出があったことは、本市の環境政策を前進させる大きな機会と考えます。

現在進められているデータセンター建設についても脱炭素の取組みについて環境審議会でも協定を結ぶ必要が指摘されています。

また、工事や稼働に伴う影響にたいして、住民の間に不安が広がっています。これらは決して反対の意思表示ではなく、「地域で暮らす者として、安心できる環境を確保したい」というごく自然な思いから生じているものです。そこで、市内データセンターの現状と今後の市の対応について質問します。

(1) 市内のデータセンター建設の現状と今後について

(2) データセンターを含めた、市と企業の連携について

(3) データセンター建設を考慮した、白井市の脱炭素の取組みについて

(4) データセンター建設に伴う、市民の生活環境と安全に関する問題と、補償を含めた対応策について

質問事項	質問要旨
<p>1. 災害時に共に支え合うまちづくりについて</p>	<p>私たちの生活様式が多様化する中で、災害時に求められる「安全」のかたちも刻一刻と変化しています。</p> <p>災害は、時を選ばずにやってきます。</p> <p>近年、激甚化する自然災害に対して、ハード面の整備だけでなく、一人ひとりの自覚と、それを支える「地域の仕組み」そして、誰一人取り残さないためのソフト面の対策の強化が、一層求められています。</p> <p>本市の、第6次総合計画基本構想では、「世代を超えた笑顔と豊かさを未来につなぐまち」を将来像とし、今後10年間の重要なテーマの1つに、災害への備え・対策と、6つの目指すまちの1つに「災害に強いまち」を掲げています。</p> <p>本年、2月1日に昨年から引き続き大規模な総合防災訓練が実施されました。この訓練の成果と課題を踏まえ、どのように計画を実行していくのか今後の取り組みについて伺います。</p> <p>(1) 総合防災訓練の昨年度と本年度の違いについて伺います。</p> <p>(2) 子どもを対象とした訓練などの実施状況について伺います。</p> <p>(3) 感震ブレーカーの目的や普及推進について伺います。</p> <p>(4) 要配慮者への避難行動の支援の取り組みについて伺います。</p>